
遊戯王GX ～煌めく星～

クーヘン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 　　＼煌めく星＼

【Nコード】

N1856Y

【作者名】

クーヘン

【あらすじ】

とある不幸な出来事により、命を失った諸星 もろほし 俊平 しゅんぺい。

輪廻転生の仕組みにより、彼は再び人間へと生まれ変わる。

しかし、転生先は遊戯王の世界だった！

そして、その世界も、彼が予想していた展開と少し違っていて…

テンプレ通りにいかない転生者による、ちょっと違った遊戯王GXのおなはし。

更新頻度は遅めになると思いますが、よろしくお願いします。

No.00 プロローグ（前書き）

初めまして。

クーヘンです。

今日からこの作品を執筆させて頂きます。

よろしくお願いしますm┐┐m

No.00 プロローグ

——命ある物は必ず『死』を迎える

その命に灯された火が、ふっと、消えていくように

——どうして俺なんだ

夜は人通りが途絶える、住宅街。
そこに、一つの黒い影。

——どうして俺なんだ

その影は、十代後半の男。
そして、その腹部には、深々と包丁が突き立てられていた。

——俺が何をしたって言うんだ。屑みたいな奴らじゃなくてどうして俺がこんな目に遭わないといけないんだ。

止まらない流血。

動かない身体。

混濁していく意識。

彼は、どこにでもいる普通の高校生だった。

毎日のように学校に通い、放課後を友達と過ごし、帰宅する。という生活を続けていた。

その、普通の高校生の命が、いままさに尽きようとしている。

—— ああ、俺、ここで死ぬのか。

逃れられない事実。

流血は止まる気配が無い。

—— 親父、お袋、みんな……。今まで、世話になったな。

激しい眠気が彼を襲い、彼はそこで意識を手放した。

やあ、どうも。

確かに俺は死んだけど、気が付いたら違う場所で生を受けてたってわけ。

俗に言う、輪廻転生ってやつか。

人間に転生できたのはいいんだけど、どうやら、俺が転生した世界は…

遊戯王の世界らしい…。

いやだって、テレビ見てたら普通に海馬コーポレーションについての番組があったりしたら、ねえ…。

ちなみに、俺は前の世界では遊戯王プレイヤーだったし、詳しいルールとか把握してるから、苦労はしないだろうけど…って、いまかなり重要な事に気付いた…

デッキが無い！！

テンプレ通りの転生なら、デッキには困らないんだろうけど、流石に現実には甘く無いってことか。

いやあ、困った。

こつちの世界のカードの価値ってかなり高いんだよね…
レアカードとなると、1箱に1枚か2枚かだし…

…悩んでいても仕方が無い。
とりあえずは小学校に上がるまでは我慢しよう。

おっと、事故紹介がまだだったね。

俺の名前は『諸星 俊平』
今は3才。

家族構成は、親父とお袋だけ。
最近増えてる核家族ってやつだ。

親父の仕事は会社員。
どこで働いているのかは分からないけど、収入はいいようだ。

お袋は主婦。
まあ当然といっちゃあ当然か。

さて、一息ついたところだし、今からでも何のデッキを作るか考えておこうかな。

No.01 実技試験 VS 試験官（前書き）

今回は実技試験だけとなります。

No.01 実技試験 VS 試験官

時が経つのは早いもので、今俺はデュエルアカデミアの入学試験会場にいる。

デュエルアカデミアとは、主に遊戯王のことについて学ぶ、プロデュエリスト養成学校。

この世界では、プロデュエリストもれっきとした職業で、収入もいい。

俺は昔からデュエルが好きだ。

そのデュエルを仕事にして食っていけるなんて、最高じゃないか！
と思い、プロデュエリストを目指すことにした。

俺の知識量なら、アカデミアに通うまでもないのだが、アカデミアはれっきとした『プロ養成学校』である。

プロになるにはアカデミアに通うのが一番。

そう思った俺は、両親の同意を貰い、受験の手続きを済ませて、今に至る。

筆記試験は既に終わっていて、残すは実技試験。
渡された受験番号は…8番。

暇だったから、一足早くに試験会場に来てみたけど、ここで問題発生。

……えーと、俺の見間違いならいいんだけど、万丈目とか明日香とかいるんですけど。

もしかして、俺が転生した世界ってGXの世界？

……まあ、デュエルアカデミアとかあるのはGXしかないし

………なんで俺気付かなかったんだろう。

俺がしばらく考えていると、試験は既に始まっていたようで、結構盛り上がっている。

「受験番号8番、諸星俊平さん、1番の決闘場に移動してください。

」お、来た来た。

さてと、試験官を倒しに行こうかな。

決闘場に行くと、試験官が立っていた。

「受験番号8番の諸星俊平です。よろしくお願いします。」
まずは礼儀正しく挨拶。

「おつ、礼儀正しいな。ではこれより実技試験を始める！」

「「決闘！！（デュエル！！）」」

試験官LP4000

俊平LP4000

「先攻は譲ろう。」

「ありがとうございます。では俺のターン、ドロー！」

勢い良くデッキからカードを引く。

この手札なら…！

「俺は、セイクリッド・シエラタンを守備表示で召喚！」

「セイクリッド・シエラタンの効果を発動！デッキから2体目のセイクリッド・シエラタンを手札に加える！そして、手札から魔法カード、二重召喚を発動！」

「何！？」

「そして、2体目のセイクリッド・シエラタンを守備表示で召喚！セイクリッド・シエラタンの効果を発動！デッキからセイクリッド・ダバランを手札に加える！」

「レベル3のモンスターが2体…と、いうことは…！」

「正解！でもまだまだ！俺は、魔法カード、セイクリッドの星痕を発動！」

「さあ、これで準備は整った！俺は、2体のセイクリッド・シエラタンで、オーバーレイネットワークを構築！光臨せよ！セイクリッド・ヒアデス！」

防御の姿勢をとっていた、2体のシエラタンが重なり合い、星の形を作る。そして、突如光が視界を覆う。光が収まった、その場所にあったのは、聖なる純白の戦士と、その周りを衛星のように回る、2つの光。

「セイクリッドの星痕の効果を発動し、1枚ドロする。」

——エクシーズ召喚

1年程前に、ペガサス・J・クロフォードが発表した、新しい召喚方法。

本来、この世界にはあつてはならないモノ。

「俺は、カードを2枚セットして、ターンエンドだ。」

俊平

場

セイクリッド・ヒアデス

セイクリッドの星痕

魔法・罨 2枚

LP4000

「くっ…。私のターン、ドロー！」

試験官は引いたカードを確認すると、こちらを向き、にやりと笑う。

「くくく…。１ターンでエクシーズ召喚とは驚いたが、どうやら勝利の女神は私に微笑んだようだ…。」

なにその台詞。悪役臭がプンプンするぞ…

「私は、手札より暗黒界の取引を発動！デッキからカードを１枚ドロし、１枚捨てる。さあ、君もだ。」

どうやら試験官のデッキは【暗黒界】のようだ。
こちらではグラファなどがまだ登場していないせいか、マイナーなデッキとなっている。

しかし、その特殊召喚能力は、LP4000の世界では、脅威。

「１枚ドロし、１枚捨てる。」

いま俺が捨てたのは、戦士の生還。

そして、相手が捨てたのは…

「手札から捨てられた、暗黒界の軍神シルバの効果を発動！シルバを攻撃表示で特殊召喚する！」

やはり、金銀のどちらかか…

さて、相手の顔からして、何か他にもありそうだが…

「私はまだ通常召喚を行っていない。私は、暗黒界の狂王ブロンを攻撃表示で召喚！」

シルバの隣に、暗黒界を治める王が姿を現す。

その攻撃力は1800と、ヒアデスには届かない。

——が、しかし、その効果は強力。

「バトル！暗黒界の軍神シルバで、セイクリッド・ヒアデスに攻撃！ダークネス・スラッシュ！！」

…狙い通り！

「リバーズカードオープン！幻獣の角！」「な、何だと！？」

ヒアデスの頭部に大きな双角が生える。

そしてヒアデスは、更なる力を手に入れた。

「よし、迎え撃てヒアデス！『ジャツジメント・スター！！』」

シルバがヒアデスへと迫り、剣で斬り伏せようとする。

しかし、ヒアデスはそれを左の剣で受けとめ、右の剣でシルバを斬り伏せる。

「くっ…！」

試験官LP3600

「私は、カードを1枚セットし、ターンエンドだ。」

試験官

場

暗黒界の狂王ブロン

魔法・罨 1枚

LP3600

「俺のターン、ドロー！」

さあ、このターンで終わらせる！

「俺は、セイクリッド・ダバランを攻撃表示で召喚！そしてセイクリッド・ダバランの効果を発動！手札から2体目のセイクリッド・ダバランを攻撃表示で特殊召喚する！」

「な！？まさか、もう一度エクシーズ召喚をするというのか！？（だが私のリバースカードは聖なるバリアーミラーフォース…。これで破壊して、次のターンに返り討ちにしてやる！）」

「その通り！俺は、2体のセイクリッド・ダバランで、オーバーレイネットワークを構築！燃やし尽くせ！グレンザウルス！」

…うん、相手の伏せって多分ミラフォだね

だつて焦つてるフリしてるみたいだけど、顔が笑つてるもん。

「俺は、手札から魔法カード、サイクロンを発動！そちらの伏せを破壊する！」

「な、何だつて！？私のミラーフォースが！」

「バトル！グレンザウルスでブロンを攻撃！」

グレンザウルスが炎を身に纏い、ブロンに向かって猛突進。
ブロンは抵抗していたが、抵抗虚しく敗れた。

「うつ。。」

試験官LP3400

「まだまだ！グレンザウルスの効果を発動！オーバーレイユニットを1つ取り除く事で、相手ライフに1000ポイントのダメージを与える！」

「ぐあっ！」

試験官LP2400

「さあ、これで終わりだ！セイクリッド・ヒアデスで直接攻撃！
ジャッジメント・スター！！！！」

「うわああああ！！！」試験官LP-300

ブザーが決闘の終了を知らせる。

観客席が騒がしい。

何やら「ワンキル…だと。」とか「ライフが減ってないなんて…！」とか。

何はともあれ、悪い印象は与えなかったみたいだし、上出来かな。

「ありがとうございます。」

決闘の後は挨拶。

「う、うむ。試験結果についてはまた後日の連絡になるだろう。」

「はい。分かりました。」

そう言って、俺は決闘場を後にした。

あの時に、何故俺は違和感を感じなかったのだろうか。

エクシーズ召喚があるだけで、原作通りに進むだろうと、何故俺は思っていたのだろうか。

俺はこのすぐ後に、あるはずの無い物を確認することになる。

No.01 実技試験 VS 試験官（後書き）

デュエル描写が上手く書けない…。

次回は、実技試験終了と、アカデミア入学までを書いていきたいと思います！

感想待ってます！

No.02 イレギュラー（前書き）

実に2週間振りの更新です…

序盤からこれでは先がおもいやられますね^^；

No.02 イレギュラー

「行くぜ！フレイム・ウイングマン！先生のモンスターに攻撃だ！スカイスクレイパー・シュート！」

「マンマミーアア！古代の機械巨人が！し、しかし、まだライフは残っているノーネ！」

「いや、終わりだぜ、先生。フレイム・ウイングマンの効果だ！モンスターを戦闘によって破壊し、墓地に送った時、そのモンスターの攻撃力分のダメージを受けてもらっぜ！」

「何でスーと！？ペペロンチーノオ！！！」

デュエルの終わりを意味する、ブザーが鳴り響く。

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ！先生！」

原作通りに十代の勝ちか。

にしても、原作効果のスカイスクレイパーはちょっと警戒しないと
な…

「では、これにて、実技試験を終了とさせていただきます。ちよつと待っていてくれ！受験番号137番、九十九遊馬だ！遅刻しちゃったけど、試験を受けさせてくれ！」…つと、うゝん、どうしましよつか？クロノス先生？」

……はあああああああ！！！！？？

え、ちょ、なんでここに居んの！？

お前はゼアルの主人公だろ！？

…もしかして、原作とここは違うから、イレギュラーとして来たのか？エクシース召喚あるし…。

…てかお前どんだけ頭悪いんだよ！？

「別に構わないノーネ。その代わりに、私がその子の相手をするノーネ！（さっきの失敗をこれでチャラにするノーネ！137番には悪いでスーが、勝つのは私なノーネ！！）」

「わ、わかりました。では、両者は位置について下さい。」

「ではこれより、実技試験を始めます!」

「「決闘! (デュエル!)」」

遊馬 LP 4000

クロノス LP 4000

「先攻は貰うノーネ! 私のターン、ドローニヨ!」

おいおい先攻くらいあげろよ…
てか、遊馬は勝てるのか? ゼアルの遊馬のままなら、確実に勝てないぞ…。

「私は、フィールド魔法ノオー、齒車街を発動するノーネ!」

齒車街。古代の機械モンスターの生け贄を1つ分へらし、破壊された時に古代の機械を特殊召喚するフィールド魔法。

「歯車街ハーア、『古代の機械』と名前の付いたモンスターの生け贄を1体分へらす効果を持っているノーネ！よって私は、古代の機械獣を生け贄無しで攻撃表示で召喚するーノー！」

「そして私ーハ、このままターンエンドなノーネ！」

クロノス

LP4000

手札：4

フィールド魔法 歯車街

古代の機械獣（攻撃表示）

「よし、俺のターン、かつとビングだ！俺ードロー！」

あ、やっぱりその口癖は変わらないんだ。

「俺は、ズババナイトを攻撃表示で召喚だ！そして手札から速攻魔法、エネミーコントローラーを発動するぜ！先生のモンスターを準備表示に変更するぜ。」

お、ちゃんとズババナイトの効果を理解してるじゃないか。
ゼアルの遊馬よりは成長してるみたいだな。

「表示形式を変更しても、数値は変わらないノーネ。意味は無い
ノーネ！（このドロップアウトボーイは何をしているノーネ？相手が
これなら、私の勝ちが決まったようなものなノーネ！」

「いや、そうでもないぜ！先生。バトルだ！ズババナイトで先生の
モンスターを攻撃！そして、ズババナイトの効果だ！表側守備表示
のモンスターとバトルする時、ダメージ計算を行わずにそのモンス
ターを破壊する！」

「なんでスーと！？」

防御の体制を取る古代の機械獣。しかし、ズババナイトが両手の刃
を振り下ろすと、いとも簡単に機械獣は崩れ落ちた。

「俺は、カードを1枚セットして、ターンエンドだ！」

遊馬

LP4000

手札：3

ズババナイト（攻撃表示）

「わ、私のターン、ドローニョ！」

あ、ドローしたカードを見たクロノスが凄く嫌らしい顔してる…。

遊馬大丈夫か…？

「私は手札から速攻魔法、ダブルサイクロンを発動するノーネ！破壊するのは私の齒車街と、そっちの伏せカードなノーネ！」

これは不味い！

遊馬の破壊されたカードは、落とし穴か。

さあ、とうとうアイツのお出ましか。

「破壊され、墓地へ送られ、た齒車街の効果なノーネ！デッキから『古代の機械』と名前の付くモンスターをデッキ・墓地・手札のいずれかから特殊召喚するーノ！私は、デッキから古代の機械巨竜を攻撃表示で特殊召喚するノーネ！」

機械に身を包まれた、巨大な竜が姿を表す。
圧倒的な存在感と、威圧感。

その攻撃力は―― 3000。

「こ、攻撃力3000をデッキから特殊召喚だって!？」

これには外野も驚いているようだ。

しかしクロノス。本気出しすぎだろ…。

「まだ終わらないノーネ! 私ーハ、再びフィールド魔法の齒車街を
発動するノーネ! そして古代の機械獣を攻撃表示で召喚するノーネ
!」

これは、少しやばいか。

全て受ければ、遊馬のライフはあと、600。

「バトルなノーネ! まずは古代の機械獣でモンスターに攻撃するノ

「ネ！」

仲間の敵討ちと言わんばかりに、機械獣はズバナイトに向かって攻撃を仕掛ける。

ズバナイトも反撃するが、倒せるはずもなく、打ち破られた。

「うつ…くっ！」

遊馬 LP 3600

「まだあるノーネ！古代の機械巨竜で、直接攻撃なノーネ！」

「うわあああっ！」遊馬 LP 600

状況は絶望的だ。

フィールドはがら空き。

ライフもあと600。

さあ、遊馬は次のターン、何をドローするのか…

「私は、これでターンエンドなノーネ！（あと600まで追い詰めたノーネ。しかもフィールドはがら空き！勝ち揺るぎないノーネ！）」

クロノス

LP 4000

手札：1

フィールド魔法 歯車街

古代の機械巨竜（攻撃表示）

古代の機械獣（攻撃表示）

「…俺のターン、かつとビングだ！俺！ドロー！」

「……俺は、手札から魔法カード、増援を発動！デッキから、ゴブリンドバークを手札に加え、攻撃表示で召喚する！」

ゴブリンドバーク！

と、いうことは…

「ゴブリンドバークの効果を発動！召喚に成功した時に、手札から、レベル4以下のモンスターを特殊召喚できる！その効果を使った場合、守備表示になるけど、今は関係無い！俺は、手札から、ゴゴゴ

ゴーレムを守備表示で特殊召喚！」

これで、遊馬のフィールドにレベル4のモンスターが2体並んだ。
なら、することはただ一つ！

「俺は、2体のレベル4モンスターで、オーバーレイ・ネットワークを構築！行くぜ先生！エクシーズ召喚！No.（ナンバーズ）3
9 希望皇ホープ！」

純白の丸い物体が、変形し、戦士の姿を型どる。

純白の戦士。希望の使者ホープ。

「こ、ここでエクシーズ召喚でスーと！？」

「よし、バトルだ！ホープで機械獣に攻撃だ！《ホープ剣スラッシュ》！」

純白の戦士が剣を持って舞う。

素早く、且つ正確に、相手の急所を突いていく。

舞踏が終わるとそこには、機械獣が崩れ落ちていた。

「くっ…、なかなかやるノーネ!」

クロノス LP3500

「俺は、カードを1枚セットし、ターンエンドだ!」

遊馬

LP 600

手札:2

No.39 希望皇ホープ（攻撃表示）
セットカード（魔法・罠）

「私のターン、ドローニョ!」

「私の切り札を見せてあげるノーネ!私ーハ、古代の機械巨竜を生け贄にし、古代の機械巨人を攻撃表示で召喚するノーネ!」

【古代の機械】においての切り札的存在。

攻守共に3000、貫通効果持ち。

そして、クロノスのフェイバリットカード。

「バトルなノーネ！古代の機械巨人で、希望皇ホープに攻撃！《アルティメット・パウンド》！！」

「それを待つてたぜ！俺は、この時にリバーズカードオープン！」

おい、馬鹿、そっちじゃねえ！

「な、何で発動しないんだ！？」

「『古代の機械』モンスター特有の効果なノーネ。ほとんどの『古代の機械』モンスターは『攻撃する時、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罫を発動出来ない』効果を持っているノーネ！よつて、発動は無理なノーネ！さあ、ダメージを受けてもらっノーネ！」

「くっつ……！」

遊馬 LP100

あーあ。やつちまった。

さて、遊馬は耐えられるかな？

「な、何故ホープは破壊されて無いのでスーか！？ダメージが通ったカーら、破壊されるはずなノーネ！」

「希望皇ホープの効果だ！このモンスターは、No.（ナンバーズ）と名前の付くモンスターとの戦闘以外では、破壊されない！」

「何なノーネ！？その効果は！非常に厄介なノーネ！（厄介な効果でスーが、残りライフはあと100！次のターンに決めてやるノーネ！）私ーハ、ターンエンドなノーネ。」

クロノス

LP 3500

手札：1

フィールド魔法 歯車街

古代の機械巨人（攻撃表示）

ホープの効果。アニメ効果なのか…。

しかし遊馬！このターンで決めなければ、負けてしまっぞ！？

さあ見せてみる！

ディスティニードローを！！

遊馬 side

…ここまで来たんだ。

後は、自分のデッキを信じるだけ…！

「…デッキを信じるんだ！ビリービングだ！俺！ドロー！」

ドローしたカードを確認する。

『死者蘇生』

「…！！俺は、手札から魔法カード、死者蘇生を発動！対象は、先の墓地にいる、古代の機械巨竜だ！」

これさえ決まれば、俺は勝てる…！

遊馬 side out

遊馬の様子が変わった。

何か、逆転のカードを引いたか？

「俺は、死者蘇生を発動！対象は、先生の墓地にいる、古代の機械巨竜だ！」

「このタイミングで、それなノーネ！？」

「そして俺は、クリッターを攻撃表示で召喚！」

…いける！

「さあ、バトルだ！古代の機械巨竜で、先生の古代の機械巨人に攻撃！」

「迎え撃つノーネ！古代の機械巨人！《アルティメット・パウンド》
《！！》」

巨竜と巨人の力と力のぶつかり合い。

巨竜は噛みつき、尻尾で殴打し

巨人は腕を振りかざし、力任せに殴り続ける。

やがて、どちらも同時に崩れ落ちた。

「まだだ！俺はクリッターで先生に直接攻撃！」

「ペペロンチーノオオ！！」

クロノス LP2500

「これで終わりだ！行くぜ先生！No.39 希望皇ホープで、先生に直接攻撃！《ホープ剣スラッシュ》！！」

「マンマミーヤアー！？ペペロンチーノオオ！？イチゴノカオリイー！！！！」

クロノス LP0

ブザーが鳴る。

会場は騒然としている。

なにしろ、あの（・・）クロノス先生が、2人の受験者——しかも、両者とも受験番号100番以下である——に敗れたのだから。

「勝った！ やったぜ！ やったピングウー！！」

俺は、その声を聴くと、会場を後にした。

合否通知は、近い内に家に届くみたいだから、それまでは家でデッキの編集でもしようかな。

No.02 イレギュラー（後書き）

読んでいただいております。

間違いがありましたらご指摘お願いしますm（
—
—
）m

感想、意見待ってます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1856y/>

遊戯王GX ～煌めく星～

2011年11月20日16時23分発行